

心聖会 広報誌

広報こいけ

発行：社会福祉法人 心聖会
 広報委員会
 発行責任者：吉村 優児
 URL <http://www.e-shinseikai.or.jp/>

(法人事務局)

〒276-0001

千葉県八千代市小池393

TEL 047(488)8222 FAX 047(488)8229

経営理念

わたしたちは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支えることを職員の幸せとして事業に取り組みます。

- ・障害のある人の人格と個性を尊重します。
- ・障害のある人が安心して豊かな地域生活を営めるよう支援します。
- ・障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます。



新年度のご挨拶

作山更生園 施設長

市川 朋未

新型コロナウイルスの変異株に翻弄され、痛ましい災害や戦争の報道に気持ちが暗くなるなかでも、木々は芽吹きだし、生命力に溢れる季節を迎えます。当たり前に過ごしている日常がどれほど幸せであるかを実感することが増えたこの頃です。

コロナ禍において在宅勤務やテレワークなどが日常化していますが、福祉の仕事は在宅勤務が不可能で、ご利用者への直接的なかかわりが必要不可欠な職業です。そのため、人材確保・定着への取り組みは事業の継続において最重要課題で、年間通して活動を行っています。コロナの影響を受けながらも、今年も高い志を持った9名の新任職員を心聖会の新しい仲間として迎えることができました。入口の桜の木も春の訪れと共に花を咲かせ、新任職員をあたたくく出迎えてくれます。

今年度、心聖会においては創立40周年の節目の年を迎えます。「二十歳の時ここに来たんだよ」と、還暦を迎えたご利用者が笑顔で話す昔話に歴史を感じ、人生に寄り添う仕事であることに気持ちが引き締まります。ここに暮らし、ここで人生を重ねるご利用者が、これからも笑顔で過ごせる場所を、法人一丸となつて築いて参ります。

新年度の抱負

小池更生園

森 将光



この度作山更生園から小池更生園へと異動となりました森将光と申します。作山更生園では7年半、色々な方々に支えられながら生活支援員として業務に携わってきました。【ご利用者の笑顔のために】【働きやすい職場作り】という2つのキーワードを日頃から思い、業務に励んで参りました。異動となり環境も新しくなりますが、この2つのキーワードは今後も力を入れて取り組んでいきます。今までの経験や得た知識を糧に自分が持っている力を最大限に発揮していきたいと思えます。小池更生園では慣れないうちはご迷惑をお掛けすることもあるかと思えますが、即戦力として活躍ができるよう、精一杯取り組ませていただきます。そして、安心・安全にも配慮しながら信頼される支援員を目指します。

作山更生園

高橋 聖貴

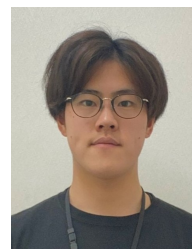


4月1日付けで小池更生園から作山更生園へ異動する事になります。

着任致しました。私を支援員として育てて頂いた小池更生園の職員・ご利用者・ご家族の皆様にご感謝を申し上げます。今年で3年目を迎え、作業班統括リーダー・支援スタッフ部会を担わせて頂くことになりました。赴任先1年目で重要なポジションですが、不安よりも楽しみの気持ちの方が正直大きいです。まずは自分自身環境に慣れること、そしてご利用者の最善の利益の為に、専門性を発揮しながら、円滑に作業が行えるよう職員同士の意見交換と意思疎通を図り協働して参りたいと思います。最後に福祉業界に勤めて13年目となります。今まで培った知識・経験等を活かしてご利用者一人ひとりとその家族、そして職員に「安心」・「笑顔」を提供出来るような存在を目指して頑張っていきます。

こいけホーム

吉田 一稀



私の新年度の抱負は「連携した支援を行う。」です。これまで日々

の業務や研修を通して、福祉サービスに従事する専門職としての知識を身に付けてきました。その中で、連携した支援を行うことは、ご利用者に安心や安定を与えられると学びました。こいけホームはご利用者にとって「家」や「帰る場所」であると思います。連携した支援を行い、ご利用者が安心して居心地よく暮らせる「家」を提供したいと思います。また、こいけホームは法人内すべての事業所とご利用者や支援員を通して繋がりがあります。今年度は連携した支援を行うためこれまで以上に視野を広げて、他事業所の方々と積極的に関わりを持ちたいと思います。入職した時から自分の中で掲げている「ご利用者の笑顔を増やす」を忘れず、今年度の抱負を達成できるよう真面目に謙虚に努めていきます。

こいけ障害者支援センター

嶋根 清人



心聖会で働き始めて丸10年経ち、今年度で11年目に入りました。

振り返ると作山更生園で2年、小池更生園で約3年、こいけ障害者支援センターで5年働き、様々な事業所でたくさんのご利用者とそのご家族の方々と関わり、支援員としていろいろな事を学ばせて頂きました。まだまだ未熟ですが、私を支援員としてここまで育てて頂いた、心聖会の方々、ご利用者の方々、そしてご家族の方々に感謝を申し上げます。現在、私は社会福祉士を目指すために社会福祉士養成所の通信課程を受講しています。心聖会では10年働いています。社会福祉士の勉強をしていく中で、経験だけでは足りないという事を痛感しています。一早く専門的な知識を身につけ、ご利用者の方々の社会参加に繋がる支援ができるよう精進し、一日一日の学びや気付きを大切にしていきたいと思っています。

小池更生園便り

作業班統括リーダー

佐久間 悠

2022年度の作業班活動は昨年度に引き続き、「働く支援」を柱として、「職住分離、構造化等による個々の特性に配慮した支援、地域貢献・交流」を重点項目として活動を展開していきたいと思っています。また、ご利用者が安心・安全に作業に集中して取り組んで頂けるよう、環境整備はもちろんのこと、昨年度以上に職員一人ひとりが視野を広げ、アンテナを張り、各作業班の枠を超え、職員間で連携を取り、全体を見守れるようなチーム作りを行っていききたいと思っています。

そして、新たな取り組みとして、土曜開所日にレクリエーションなどを取り入れ、ご利用者の皆さんに気分転換や娯楽時間・楽しみを提供出来ればと考えております。作業時間において、ご利用者一人ひとりが主役として輝き、本当にやりたいことを見つけられるよう、実践していきます。

みそ加工班

生き生きと働く

班長 鈴木 裕一



生活介護を利用して頂くご利用者にとって、働く場が楽しいという事は、やりがいや喜びに繋がります。生きがいに繋がります。活動を通じ、利用者のやる気を伸ばそうとスローガンに掲げました。

みそ加工班では、一つ一つ心を込めながら、おいしい手作り味噌の製造・販売を行っています。昔ながらの味で、「おいしい」とご好評をいただいています。味噌の製造には、多くの工程があり、工程ごとの大変さもあります。製造過程の中で、能力を発揮できるよう、それぞれ分担をし、ご利用者・職員で力を合わせ行っています。ご利用者にとって、役割を担える場、活躍の場があることは、人とのつながりの中で、成長していきける場がある事だと思います。一人ひとりが、輝き、生き生きと活動出来る様に、サポートしていきたいと思っています。

受注班

Impossible is nothing

班長 原子 仁志



日本語に訳すと「不可能なものはない。」を班のスローガン

ンとして掲げていきます。言葉だけ見ると少し重く感じますが、決してそうではなく作業活動をご利用者、職員が一体となって構築することで、ご利用者一人ひとりの可能性を切り拓いていく事ができると思うからです。最初から「不可能」と決めつけてしまえばそこで終わってしまいます。日々一步一步コツコツ挑戦する気持ちを大切に、ご利用者のご要望を職員が形にして、1ミリでも可能性があるならば何事にも挑戦していきたいと考えています。また、受注班では地域との連携を大切にしていきます。「割り箸封入作業」や「紙すき作業」等、受注作業にもより一層力を入れていきます。ご利用者17名・職員9名の合わせて26名の大所帯の班ではありますが、精進して参りますのでよろしくお願い致します。

室内第1班

It's Show Time

班長 佐久間 悠



今年度の室内第1班のスローガンは、「It's Show Time-」

です。日本語に訳すと「さあ、ここが腕の見せどころだ!」という意味合いです。室内1班のご利用者・職員が1つのチームとして士気を高めたり、前向きなチャレンジを生み出したりすることに繋げようという気持ちを込めたスローガンです。そして、ご利用者の可能性は無限大です。作業時間の中で「これはしたくない」「出来ない」というネガティブな気持ちになりがちですが、そういう時こそ「自分の力を発揮するぞ」というポジティブな姿勢になれるよう、ご利用者の小さな変化やニーズを発見し、一人ひとりの新たな可能性を引き出すことが職員の役目です。

ご利用者の挑戦出来る環境を作り、可能性を広げ、笑顔で意欲的に作業に取り組めるように支援して参ります。

室内第2班

Be Yourself

笑顔溢れる1日を

班長 湯浅 まみ



今年度の室内第2班は『Be Yourself』笑顔溢れる1日を

をスローガンとして掲げ、ご利用者の支援に励んで参りたいと思っております。日本語に訳しますと、「自分らしく」という意味合いになります。

2班には自分の得意、不得意好き、嫌いを伝えることの出来る方もいます。ご利用者が自分らしく、やりたいことが出来る環境作り、「あの活動楽しかったな」「またやってみたいな」と1日を振り返った時に思える作業班になれるよう、このスローガンを設定しました。

職員同士積極的にアイディアを出し合い1つのチームとして頑張っております。ご利用者13名、職員7名、笑顔溢れる空間を皆で作っていきます。1年間宜しくお願い致します。

室内第3班

思いやり

目配り・気配り・心配り

班長 片岡 千晶



今年度の室内第3班は「思いやり・目配り・気配り・心配り

」をスローガンとして掲げ、ご利用者の支援に励んで参りたいと思っております。ご自身から「〇〇がしたいな」「〇〇は嫌だな」といった思いの発信が難しい方が室内3班には多くいらっしゃいます。そういったご利用者の思いや考え等を見逃さない様、日々『目配り、気配り、心配り』を意識して行い、ご利用者の支援に当たれるようにと考え、このスローガンを設定致しました。

思いやりを強く持って、ご利用者のニーズを汲み取り、怪我なく安全により良い毎日が送れるよう、職員一同頑張っております。今年度もよろしくお願致します。



こいけ障害者支援センター 便り

夜桜と朝桜

新年度といえは桜を連想する方が多いのではないのでしょうか。

コロナ禍以降、3度目の花見の季節が訪れましたが、まだまだ外での活動には制限があります。花見に出掛けることが難しい状況の中でも季節の行事を満喫するために、本物の桜に負けずとも劣らない「2本の満開の壁桜」を咲かせ、季節を彩りました。

チーム小池は「夜桜」、チーム在宅は「朝桜」を制作しました。皆がアートの才能を発揮し



上：朝桜男子会 下：夜桜女子会



て、力強い作品になりました。

新チーム誕生

今年度は新チームが誕生し、5チーム編成になりました。チーム毎に特色のある作業活動を行っています。簡単な説明になりますが、ご紹介致します。

「チームイエロー」近隣小学校及び公園清掃、センター近隣清掃、空き缶リサイクル。「チームグリーン」ちいき新聞の折り込み・配達、運動。「チームレッド」農作物の栽培・販売活動。「チームラベンダー」ペットボトルリサイクル、紙すき、堆肥作り、神社清掃。「(新)チームブルー」ちいき新聞の折り込み・配達、運動。「全チーム共通」アート、

手芸品制作。今年度も、ご利用者一人ひとりが役割を担い、社会参加に繋がることを目標に、作業活動に取り組んでいきます。



京成ホテルミラマーレが会場となりました

3月18日、千葉県知的障害者福祉協会が主催する就活イベント「福祉ライブカフェ」に出展しました。そこで、障害者福祉の現場で働く先輩として、就職活動中の学生の疑問や質問にお答えしました。心聖会や作山更生園の様子や雰囲気をお伝えすることで、福祉職を目指す学生の不安を取り除き、よりいっそう興味を持ってもらえるよう努めました。具体的には、ある職

福祉の現場を代表して

福祉ライブカフェ出展報告

作山更生園便り

員のシフト表を例としてパンフレットに掲載したり、休みの日の様子をエピソードとして紹介したりすることで、生活支援という職業を身近に感じてもらえるように工夫しました。さらに、普段から感じている障害者支援のやりがいをお話することで、不安や疑問を少しでも払拭できるように努力しました。最初は不安そうに質問されていた学生の方も、最後は笑顔になってブラスをあとにされていました。学生の皆さんが抱えていた福祉職に対する疑問や心配事が少しでも解決され、福祉の現場で働く仲間をひとりでも多く増やすことができればと考えています。



就活生の疑問にお答えしました



ご利用者にも好評です！

普段の生活以外でのご利用者の楽しそうな様子や満足そうな表情を、どうかにかけてご家族の方や他のご利用者に伝えられなにかと考え、平成30年度より創刊した、「作山通信」。作山更生園の玄関に掲示を始めてから多くの方にご愛読いただき、創刊から4年経ち、ついに第50号に到達しました。

発行ペースは不定期ですが、紆余曲折を繰り返しながらも継続させてきました。しかし、コロナ禍が襲い、昨年より、多くの行事が感染予防のために規模の縮小や機会の減少となったことで、紙面のテーマである「楽しそうな様子」を紙面でお伝えできない苦しい時期もありましたが、へこたれることなく続けてきたおかげで50号という節目にたどり着けました。

ご存知ですか？作山通信

一番気になるのは読者の反応です。「作山通信」第1号ができたあがったとき、「本物の新聞みたいだ」という声があがったときの、その言葉が忘れられません。そんな声を聞くと、嬉しくて、また頑張ろうと思いました。次号の発行につなげてきました。多くの人に支えられたことを実感しています。ここまでこれたのも毎号読んで下さる読者の皆様、原稿作りにご協力いただいた皆様のおかげと大変感謝しております。これからは100号に向かって皆様に親しまれる紙面作りを行っていききたいと思っています。ご来園の際は、ぜひ一度「作山通信」をご覧になっていただければと思います。これからも末永くお付き合い下さい！

情報を送る側として



記念の50号です！

法人だより

新任職員紹介

①名前②出身地③好きな言葉
 〈小池更生園〉



①佐藤 大哉
 (さとう だいや)
 ②千葉県千葉市
 ③継続は力なり



①本間 達也
 (ほんま たつや)
 ②新潟県新発田市
 ③百里を行く者は
 九十里を半ばとす



①高野 愛咲美
 (たかの あさみ)
 ②千葉県鴨川市
 ③嫌ならやめろ
 面倒なら続けろ



①花井 太基
 (はない たいき)
 ②千葉県船橋市
 ③努力は裏切らない



①林 谷響
 (はやし ひびき)
 ②千葉県八千代市
 ③今からこれから



①櫻田 孝紀
 (さくらだ たかのり)
 ②千葉県四街道市
 ③平常心



①鈴木 孝典
 (すずき たかのり)
 ②千葉県千葉市
 ③為せば成る

〈ケアサポート笑和輪兼
 こいけ障害者支援センター〉

〈こいけ障害者支援センター〉

〈小池更生園〉
 高城 一也(前・こいけ障害者
 支援センター)
 森 将光(前・作山更生園)
 〈作山更生園〉
 太田 篤志(前・小池更生園)
 高橋 聖貴(前・小池更生園)

〈こいけ障害者支援センター〉
 阿田 絵里子(前・こいけホーム
 安達 洋平(前・作山更生園)

〈こいけ障害者支援センター
 兼こいけホーム看護師〉
 板倉 有里佳
 (前・こいけ障害者支援センター
 生活支援員)

寄附の御礼

〈寄附金〉

柴垣 謙介 様

〈寄附物品〉

東京城西ロータリークラブ 様



新型コロナウイルス
 抗原検査キットを
 いただきました

異動職員のお知らせ

お知らせ

小池更生園みそ加工班からの

平素より、ご愛顧ありがとうございます。
 新型コロナウイルスの状況も中々着地点が見えませんが、緊急事態宣言発令時と同様に、引き続き感染症対策に力を入れていくところ
 出店は難しい状況にあり、直接お客様とお会いして販売が出来ないのは誠に残念ではありますが、八千代市のふるさと納税や船橋市にあるメグスパでのお取り扱いは継続しています。また、直接お電話やメールでの受付もしていますので、お気軽にご連絡ください。

編集後記

「道をひらく」ためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。松下幸之助著「道をひらく」の一節です。
 心を定めることも一苦労、一歩目を踏み出すことも一苦労、懸命に歩み続けることも一苦労、道をひらくことは並大抵ではありませんが、一歩一歩着実に進んで行きたいものです。